

がん医療の向上に向けて

NPO法人 日本がん患者団体協議会
がん対策情報センター運営評議会委員
山崎文昭

はじめに



がん医療の質の向上に向けて、
患者側の視点より課題を整理し、
重要度・優先度・コスト・達成時間を物差しとして
これからのがん医療の向かうべきグランドデザイン
を示し、具体的な提案を行う

基本的な活動方針

現在のシステム



大きな隔たり

将来のあるべきシステム

- 強力なリーダーシップ(誰が?)
国・地方・学会・患者会
- 明確な方針(グランドデザイン)

安全性・有効性・患者中心・効率・コスト・公正

評価する方法の確立
透明性の確保

がん医療の未来図を描く 1

どの病院へ行けばいいの？

現在の悩み

現在は医療機関を選ぶための質の高い情報が充分提供されていない

現状

医療機関に関する情報により、比較検討が出来るようになる

未来図

自分のがんかも知れない？

かかりつけ医に相談すると
『様子を見ましょう』と言われるケースが多い

正確な診療判断が出来るようになり、適切な
医療機関へ紹介される

がんについての情報が欲しい

現在はがん医療に対するEBMに基づいたデータの整備が行われていない

患者さんが必要な質の高い情報が、いつでもどこでも無料で安易に入手出来るようになる

自分のがんについて勉強がしたい

正しい情報に基づいたがんについて学ぶ機会がない

正しい知識により不安が解消し、治療法等選択を助け、患者参画の意識向上

ベッドの空き待ちで入院できない
3時間待ちの3分診療

病院はいつも混んでいて、必要な時に必要な治療が
スムーズに受けられない

病院の混雑が緩和され、スムーズに医療を
受けられるようになる

医師の説明が分からない

話の内容が難しく、理解が出来ないまま説明が終わってしまう。説明時間が少ない

病気の説明や治療方針などを分かり易く説明してもらい、納得して医療を受ける
自分で勉強する機会が増える

今の医療が最良なの？

今受けている治療が、自分にとって最良なのかが分からなくて不安

納得してがん医療を受けられるように、正しい情報を提示

病院へ通うのが大変

定期検査や薬を貰いに行くのが、とっても大変
病状が急変した時が不安

医療機関の連携により、通院に関する負担が減る

がんの痛みが取れない

痛みを訴えても対策をしてくれない

緩和医療に関する知識が広がり、痛みの管理が出来るようになる

世界標準の薬で治療できない

日本で未承認の薬が国内で承認されるまでに
時間が長くなる
エビデンスがあるにも係らず適応外の薬がある

科学的根拠に基づいた(EBM)医療ができるよう、
承認システムが改善される

- EBMに基づいた情報の提供
- 患者の参加と責任の自覚

● 質の高い医療の提供が初めて可能になる

最新・最善の研究エビデンス
臨床上の判断(教育と経験のある専門医)
最良の医療施設
患者の選択(価値観やQOL)

知識の共有・理解

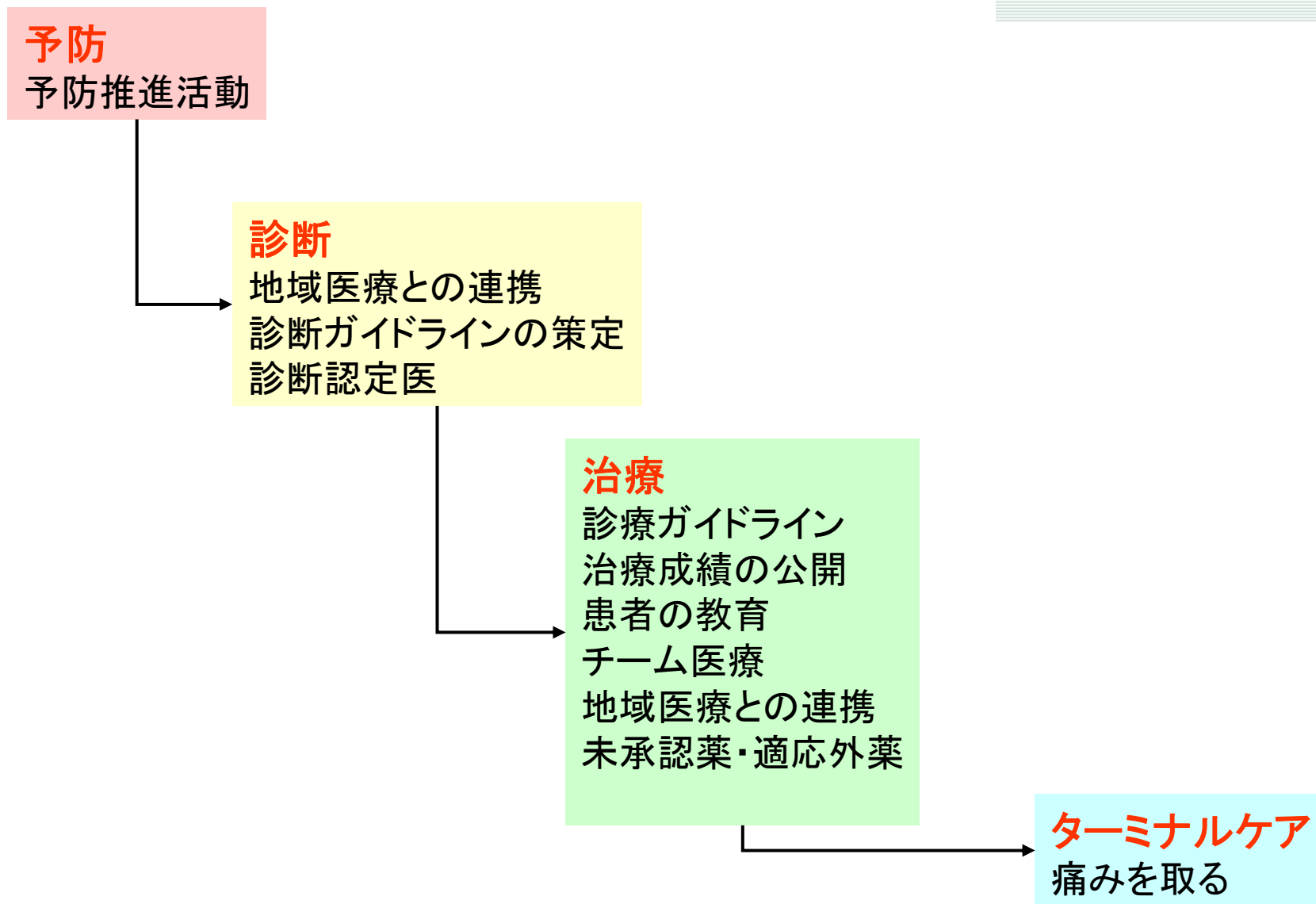
- **情報提供**

- 情報センターの充実
診療ガイドライン
患者へ学習機会の提供

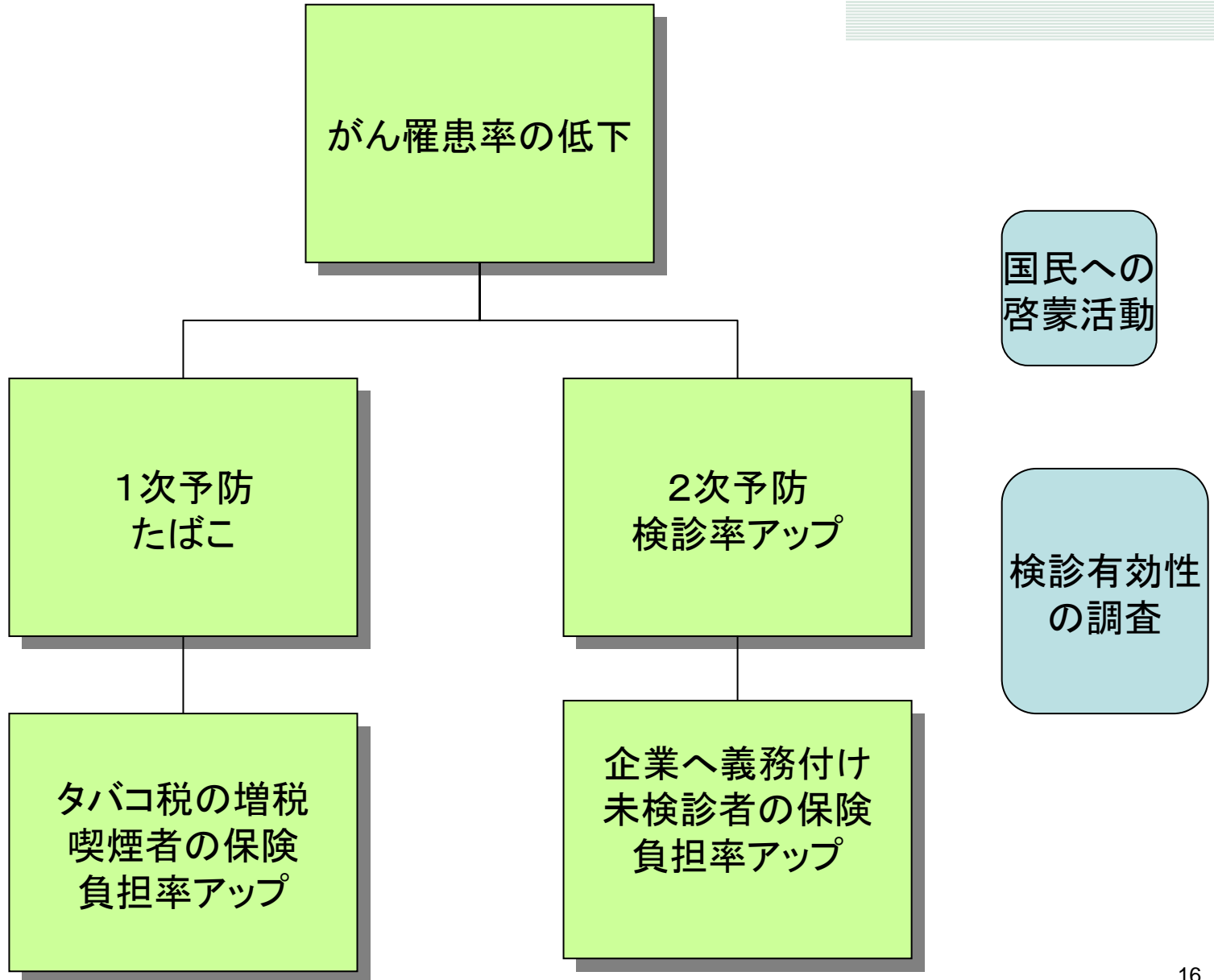
- **質の向上**

- チーム医療
診療ガイドライン
地域医療との連携

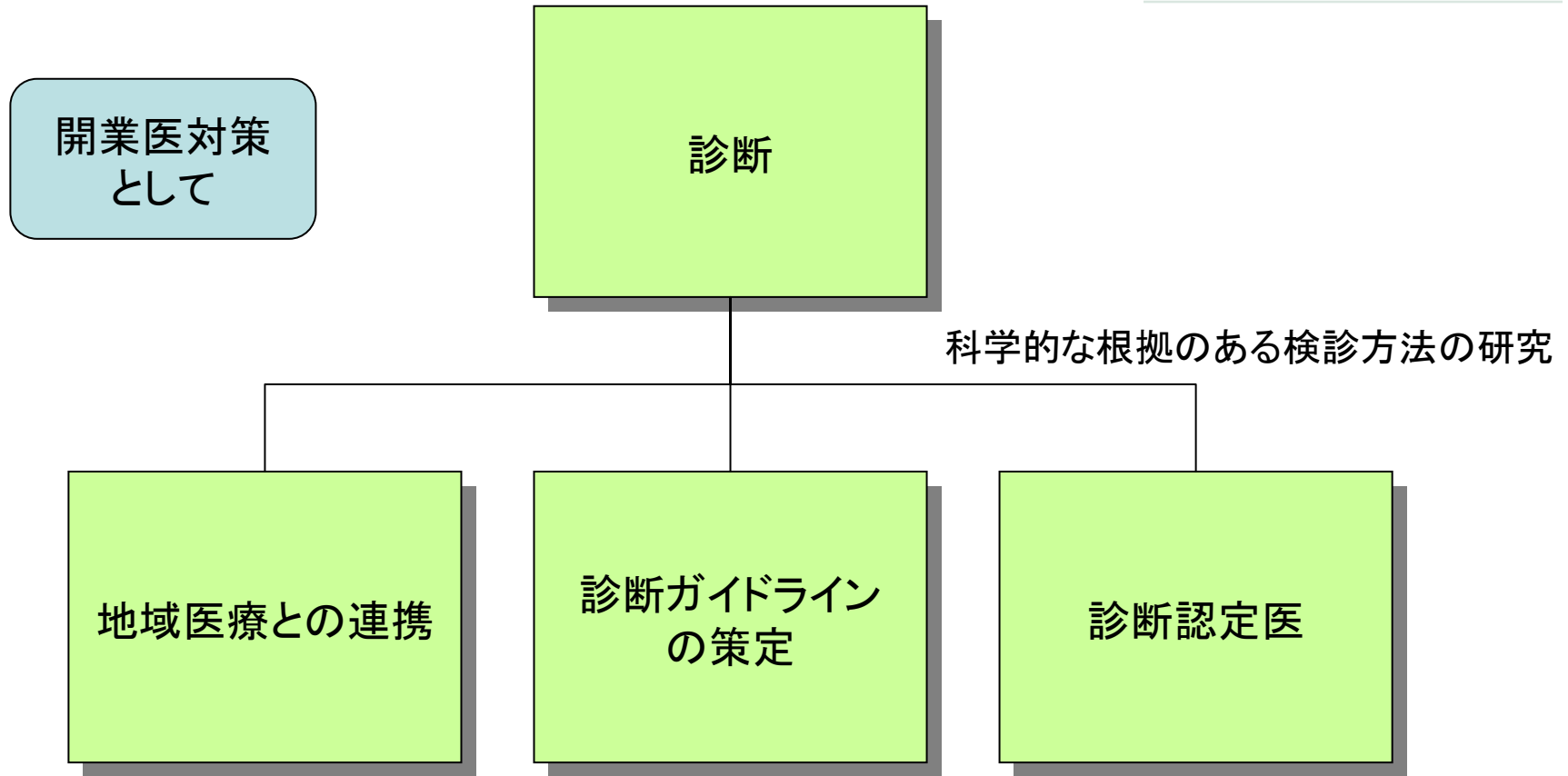
概念図



予防



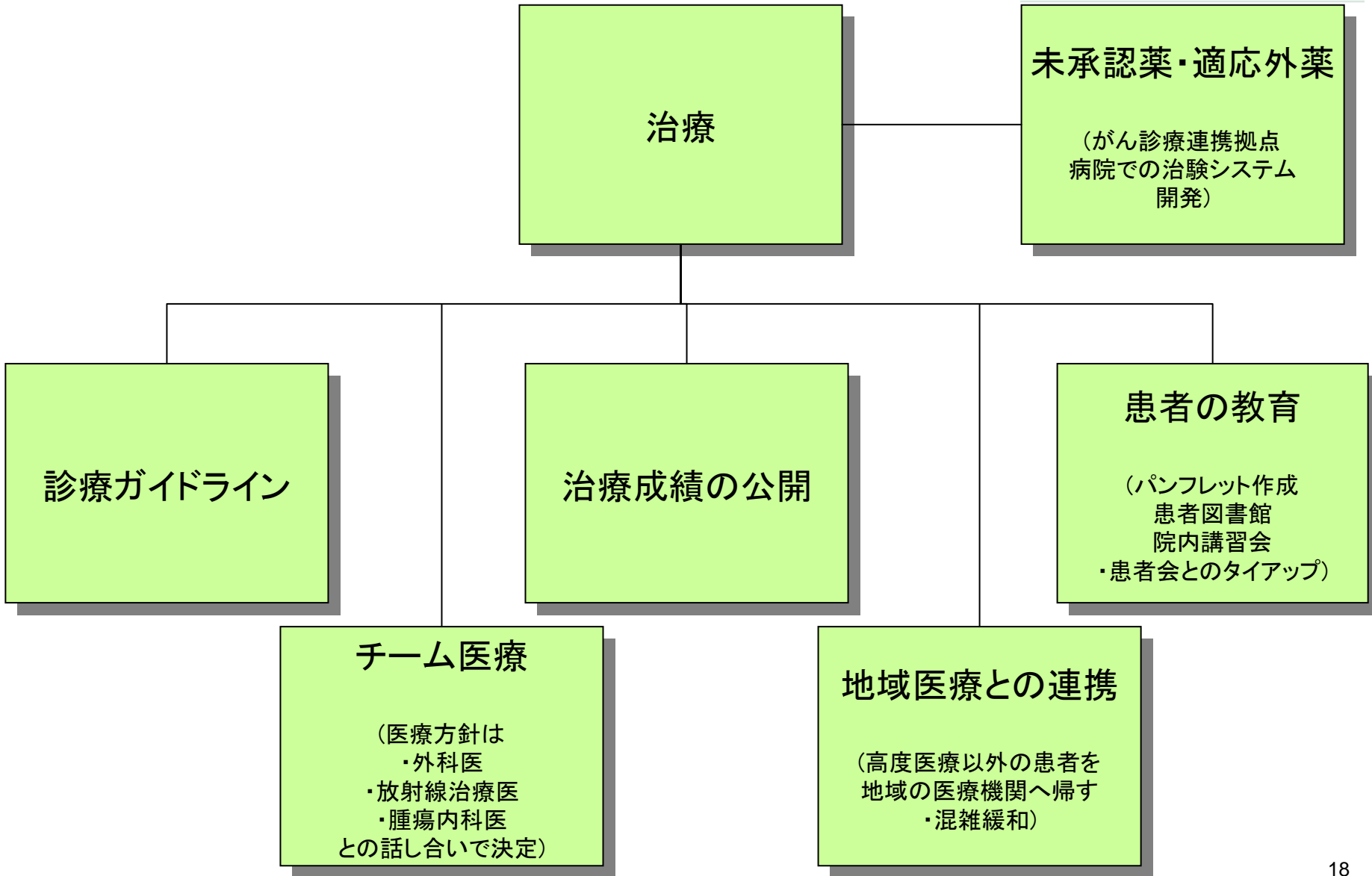
診断



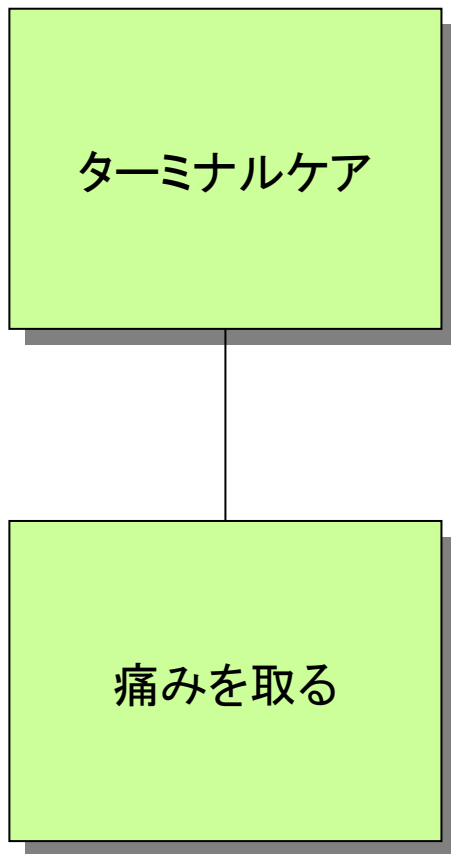
- ・診断の出来るかかりつけ医が診断をして、治療の出来る医療施設を紹介
- ・がん早期発見にはかかりつけ医へインセンティブをつける

診断を開業医に任せれば、がん診療連携拠点病院の混雑緩和

治療



ターミナルケア



・医療提供者

最新のがん性疼痛治療法の普及・徹底
専門医の育成
適切な薬をストックする

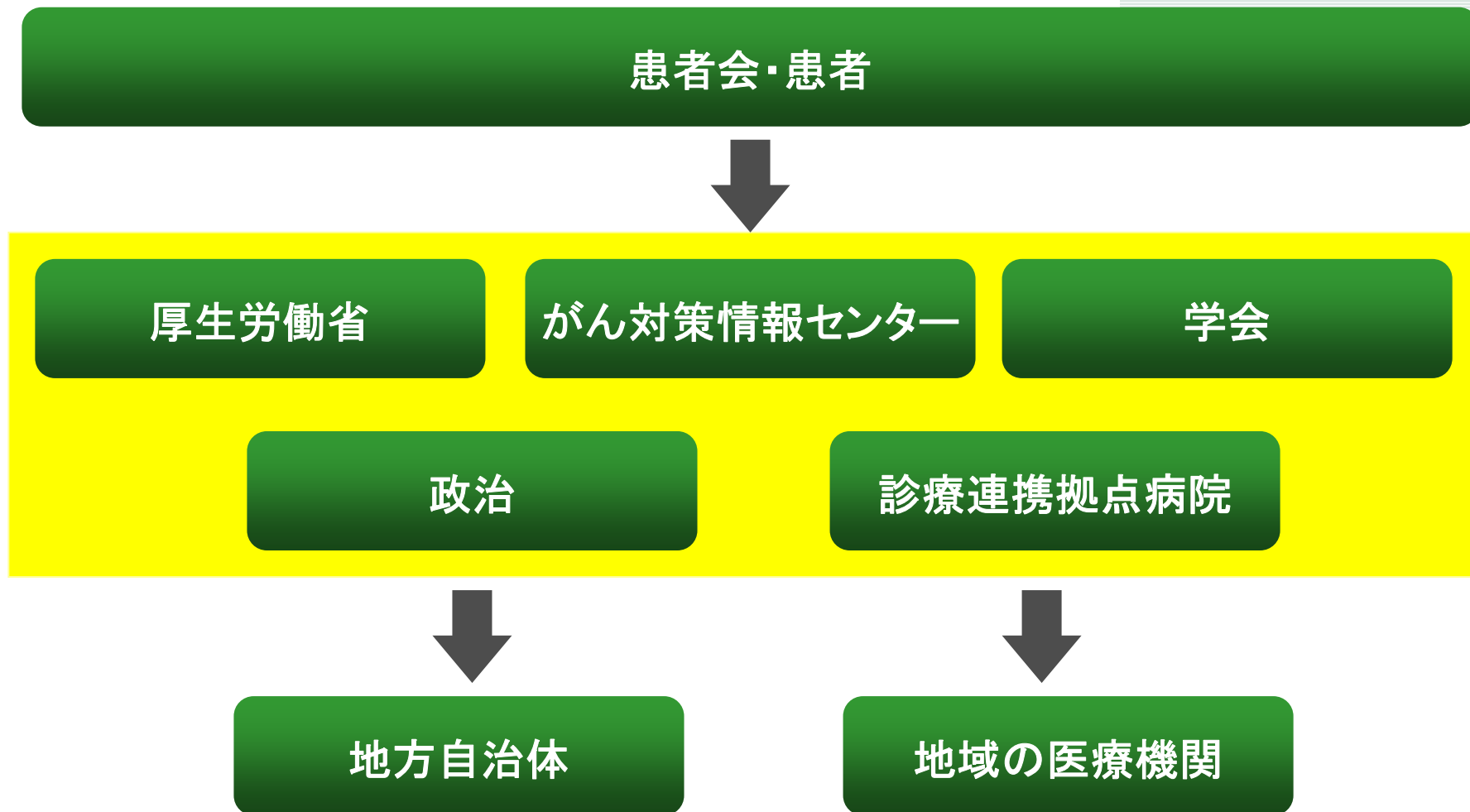
・薬

がん疼痛治療薬の早期承認
使用量に見合った薬価

・患者

がんの痛み/医療用麻薬/治療法に対する知識の普及

役割分担の構築



これからのがん医療を向上させるためには、
行政・医療提供側の問題であると同時に、
国民自身(患者)の問題でもある。
その両方の視点と意識を持つ事が大切だ